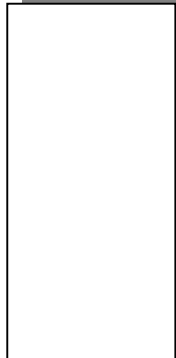


突然ですが、皆さんは本
当に、2度とない人生とい
う意識を生きています
か？2度とない人生を本
当に知るためには、何とな
く時間を貪ってはいけ
ません。実行せずして、
実践せずして、2度とない
人生はありえないのでは
ないでしょうか？

これはどんな仕事であ
ろうと同じで、農業であろ
うと商いであろうと、私の
ような僧侶であろうと、何
もお金や名誉を第1に求
めて仕事をしているとい
う人は、少ないのではない
でしょうか？また同時に、
そうであってほしいとい
う私の願いもあります。□
では何のための仕事なの
かということですが、間違
いなく『自分を作り上げ



るために、仕事をしてほし
いと思うのです。』それが同時
に、天地宇宙の意志だと思
うからなのです。自分がこの宇
宙の1つになる、地球と1つ
になる。そういう自己一体の
世界。そういう世界を体現し
ていく。それが生き甲斐にも
死に甲斐にも繋がっていく
と思います。

あっちに行ったり、こっちに
行ったりフラフラするのが
人間なのですけど、地球と同
じように1つの重心を回る、
地球は毎日1秒の狂いもな
く回っています。これが宇宙
心というものです。そんな宇
宙心に合わせて生きていく。
宇宙の生命体そのものが自
分であるという悟り、その教

えが『法華経』の「現世安穩
げんぜあんのん
(この今いる自分の場所が
平和な仏の世界になる)」に
相違ないのです。

『二度とない人生だから、ま
ず一番身近な者達に、できる
だけのことをしよう。貧しい

けれど、こころ豊かに接して
ゆこう。』疑えば花ひらかず、
信心清浄なれば、花ひらいて
仏を見たてまつる。』

あれはちょうど2年前(平
成14年)の2月下旬でした。
兼ねてからの念願であった
仏教の発祥の地と言われる
インドへ、お釈迦様がお悟り
を開かれたという、「靈鷲山」
へ仏教遺跡を辿って旅をし
てきました。その時のことを
思い出します。

私は僧侶という肩書きを
捨てて、一人の仏教信仰者と
して、あのお釈迦様(世尊)
のお生まれになられたイン
ドから見るヒマラヤ大連峰
の荘厳さを思い浮かべてい
ると、この地球を本当に愛す
ること、それが地球人の全て
の信仰であり、宗教であらね
ばならないと痛感しました。
私はその時「個」から「衆」
への自覚が生まれたのです。
「一人(個人)の悟り、一人
(個人)の救いの時代は終わ
った。地球全体、人類全体が、

平和で幸せになることが、何
よりも大事なことなのです」

私は信じています。「21
世紀は宇宙の時代になると。
そしてその先頭に立つて、そ
の使命と役割を果たす事の
出来る者は、日本民族だと。
欧米には欧米の宗教と文化
があり、中国には中国固有の
中華思想があり、宇宙的なも
のにはかなり難しい。またイ
ンドや中東では、今日に至る
も民族間の対立が激しく、宇
宙的なものはおそらく生ま
れないでしょう。そんなこと
を考えると日本民族は、物質
的資源に乏しいですが、精神
的な面では神秘的な宇宙の
真理を聞く民としての使命
を持つ最適な民族だといえ
るのではないのでしょうか？

詳細は除き、目指している
宗教の本質や目的は大きく
一つであり、仏教徒も同じ本
体を求めているが、キリスト
教徒も回教徒も、皆が場所が
違い、名前が違う。この本質
を本当に知ることが出来た

ら、世界は戦争をなくし、
平和の実現が可能になり
ます。大切なのは宗教・宗
派ではなく、信仰なのであり
ます。悲しいことも苦しい
ことも、それを喜びに変え
ていくのが本当の信仰で
あり、その事を世界中の人
々に伝えるのが、日本人の使
命であると私は確信致して
おります。』

私の信仰は『南無妙法蓮華
経』です。
『南無妙法蓮華経』とは、
一生懸命に『無償の愛情を
込めて生きること』です。
それが私の信仰です。

副住職 谷川寛敬